

国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 279

2023.5 ▶ 6

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2023 年 5 月 1 日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

開催中！ 特別展と巡回展

みんぱく

特別展

ラテンアメリカの民衆芸術

会期：2023年5月30日（火）まで

会場：みんぱく 特別展示館

ラテンアメリカの歴史と諸民族の文化を反映した民衆芸術の展覧会です。あふれる色とはじける形、驚異的な創造力と鋭い批判精神をご鑑賞ください。

関連企画

第 536 回友の会講演会

ラテンアメリカの民衆芸術——キュレーションの挑戦

講師：鈴木 紀（民博教授）

日時：5月6日（土）13:30～15:00



巡回展

福岡県

驚異と怪異

——想像界の生きものたち

会期：2023年5月14日（日）まで

会場：福岡市博物館 特別展示室

世界の人びとは常識や慣習から逸脱した「異」なるものを、どのように認識し、説明し、描いてきたのでしょうか。奇妙で怪しい、不気味だけれどかわいい、世界の霊獣・幻獣・怪獣が大集合！



岡山県

ユニバーサル・ミュージアム

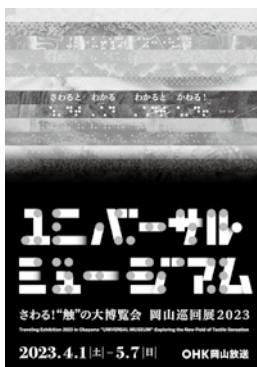
——さわる！「触」の大博覧会

岡山巡回展2023

会期：2023年5月7日（日）まで

会場：KURUN HALL（クルンホール）・KURUN ラウンジ

2021 年秋にみんぱくでおこなわれた特別展の初の巡回展を岡山で開催しています。展覧会とおして「さわる」ことの無限の可能性を探ります。



利用料金や開館時間など、詳細は各館のホームページ、もしくはみんぱくホームページ内の「展示」から情報をご確認ください。

みんぱくの特別展、巡回展の情報はこちら！

<https://www.minpaku.ac.jp/exhibition/>



特別展や巡回展、
初夏のみんぱくをお楽しみください。

陽気のよい日が続いています。開催中の特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」は、連日、多くの来館者の方々と賑わっています。岡山県と福岡県では、巡回展がおこなわれています。大型連休をはさむこの時期、ご遠方にお住まいのみなさんにも、みんぱくの資料を楽しんでいただきたいと思います。

今年は友の会でも、館外で実施する催しを、以前のようなサイクルに戻していこうと考えています。今回の「友の会ニュース」では、今年度二回目の体験セミナー（国内現地訪問企画）を案内しています。訪問先は北海道。ウポポイ（民族共生象徴空間）の見学をはじめ、アイヌ民族の文化復興のいまを体感する三泊四日の企画です。会員交流企画「中牧先生の理事長サロン」も初の対面企画で実施します。詳しくは、本紙掲載のご案内をご覧ください。

お出かけの計画のお供に！

みんぱく友の会LINE公式アカウント
友だち募集中



みんぱく友の会が企画する刊行物やイベント、会員先行予約枠のある館内催しの情報などを定期的にお届けします。会員以外の方のご登録も大歓迎です！



お知らせ

2023年ゴールデンウィーク期間の
開館日と休館日

国立民族学博物館は毎週水曜日が休館日ですが、5月3日（水・祝）は開館、5月8日（月）は振替で休館します。5月10日（水）は通常の休館日となります。

【募集】第84回体験セミナー

ヤウンモシリ(北海道)への旅 ——アイヌ民族、文化復興のいま

同行講師：齋藤 玲子(民博准教授)

日 時：2023 年 9月7日(木)～9月10日(日)

申込締切：2023 年 7月31日(月)

参加費：127,300 円 (行程中の移動費、食費、宿泊費【相部屋】、見学費を含む)

募集人数：25 名 (最少実施人数 15 名) 〈先着順〉

※友の会会員以外の方は、正会員もしくは体験会員へのご登録をお願いします。

※宿泊は2名1室。3泊目のみ3～4名1室。(左記以外の希望がある方はご相談ください)



ウポバイで上演される伝統芸能。写真は「弓の舞」。
(提供・公益財団法人アイヌ民族文化財団)

旅 程

集合：新千歳空港(11時頃)

まずは、野幌森林公園内にある2つの施設へ。道立アイヌ民族文化研究センターをあわせもつ**北海道博物館**では、北海道の自然・歴史・文化を総合的に展示しています。**北海道開拓の村**は、明治から昭和初期の建造物を移築復元・再現する野外博物館で、当時の暮らしの様子を体感することができます。宿泊先は札幌の中心・札幌駅の近くで、アイヌ文化を発信する**ミナバ**など、公共空間での展示が多くあるエリアです。(札幌市泊)

午前中は**北海道大学植物園**へ。W. S. クラークが進言したことにはじまる同園で、北海道の自生植物や明治時代につくられた建造物を見学します。園内には、現役の博物館建築としては国内最古である**博物館本館**、**北方民族資料室**や**北方民族植物標本園**があります。昼食後、**サケのふるさと 千歳水族館**へ。千歳川岸に埋め込まれた水中観察ゾーンからは、サケの遡上の様子が観察できます。アイヌ語の《シ・コツ》(大きな窪み)に由来する**支笏湖**に立ち寄ったのち、**知里幸恵 銀のしずく記念館**へ。『アイヌ神謡集』をまとめた知里幸恵の生涯について理解を深めます。(登別市泊)

終日**ウポバイ(民族共生象徴空間)**で過ごします。**国立アイヌ民族博物館**や**伝統芸能**を観覧し、**スタッフからお話をうかがいます**。園内には多くの施設があり、ものづくり見学や弓矢体験など**さまざまなプログラム**が用意されていますので、自由時間にはお好きなプログラムを組み合わせでお楽しみください。(平取町泊)

町立二風谷アイヌ文化博物館を見学し、**工芸家の方からお話をうかがいます**。自由時間には、周囲のほかの施設の見学や、工芸・民芸品店を訪ねてお買い物などをお楽しみください。昼食は**チセ**の中で**アイヌ料理**(弁当とシカのオハウ：汁もの)をいただきます。午後は**木彫体験**に挑戦します。

解散：新千歳空港(17時頃)

※行程は諸事情により変更する場合があります。
あらかじめご了承ください。

二〇二〇年七月、北海道白老町にウポバイ(民族共生象徴空間)が誕生して四年目を迎えます。このたび、会員のみならずからも多くの声が寄せられていたウポバイ、そしてアイヌ文化を支え、継承する方々を訪ねる体験セミナーを実施します。

ここ十数年のあいだに、アイヌ民族を取り巻く環境には、大きな動きがありました。二〇〇七年の「先住民族の権利に関する国際連合宣言」を経て、日本では二〇〇八年に、アイヌ民族を先住民族とする国会決議がなされます。その後、アイヌ民族に関するさまざまな施策が推進され、二〇一九年には、国が法律として、初めてアイヌ民族を「先住民族」として明記した「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の



復元されたチセ(家)は、学習や交流の場となっている。
(提供・平取町立二風谷アイヌ文化博物館)

推進に関する法律」が制定されました。二〇二〇年には今回訪問するウポバイがオープンし、中核施設の国立アイヌ民族博物館の展示は、アイヌ民族の視点から「私たち」という切り口で語る構成になっています。

旅は札幌に始まり、千歳、登別、白老、平取町二風谷へと移動します。ヤウンモシリ・北海道の自然や歴史、周辺の民族とのかかわりなどアイヌ文化の背景について理解を深めるとともに、「文化復興のいま」を体感しましょう。

アイヌ文化の担い手は、一様ではありません。多様なルーツとアイデンティティをもつ人びとが、さまざまな立場・方法でアイヌ文化を支え、発信しています。このセミナーでは、そうした方々からお話をうかがいます。

多様な人びとで構成される私たちの社会。そのあり方を考える機会になればと思います。みなさん、ぜひご参加ください。

旅のご準備に、第538回友の会講演会「つないでほどもく——アイヌとシサム」(7月1日開催)のご聴講をおすすめします。ぜひご参加ください！

お問い合わせ・お申し込みについて

お申し込みは、左記受付フォームもしくはお電話をご利用ください。申込締切日を目安に、参加手続き書類・パンフレットをお送りします。正会員の方は同伴者1名までお申し込みいただけます。友の会会員以外の方は、正会員もしくは体験会員にご登録ください。詳しくは国立民族学博物館友の会までお問い合わせください。

研修企画

公益財団法人千里文化財団 「国立民族学博物館友の会」係
TEL：06-6877-8893 ※受付時間：平日9:00～17:00

旅行企画 実施

株式会社阪急交通社 大阪団体支店営業2課
観光庁長官登録登録旅行業 第1847号
TEL：06-4795-5928 ※営業時間：平日10:00～17:30

受付フォーム

<https://www.senri-f.or.jp/84taiken/>

みんなく友の会ホームページ内にあります。



有明海のウナギは語る ——食と生態系の未来

著 中尾 勘悟(肥前環境民俗(干潟文化)写真研究所)
編著 久保 正敏(民博名誉教授)

水辺生態系の指標、ニホンウナギの資源減少は、食と生態系の危機を告げる。干潟文化写真家と民族情報学研究者、あわせて160歳を超えるふたりが、有明海を起点に、フィールドワークと文献調査、二色の糸で織りなす、次世代へのメッセージ。「今、私たちに何ができるのか」

有明海の
ウナギは語る
食と生態系の未来



B5版、288頁

会員価格:2,822円(税込)、一般価格:2,970円(税込)

発行・千里文化財団、発売・河出書房新社

みんぱくミュージアム・ショップ、お近くの書店でもご購入いただけます。
(書店でのご購入は、一般価格となります)

特集 カラダの人類学 ——身体という秘境を旅する

コロナ禍のなかで、私たちは他者の身体に触れたり触れられたりすることに気を使い、体温測定や手指の消毒など自己の身体管理を強く意識するようになりました。こうした経験から、自身の身体観に変化が生じた人も少なくないでしょう。もともと身近にありながら思い通りにならない存在、自分のもののなのに自分だけのものではないといった身体の不思議に迫ります。



特集執筆者

【執筆】松尾瑞穂、戸田美佳子、安井眞奈美、
樫永真佐夫、碓陽子、岩佐光広、松嶋健

【対談】内田樹×広瀬浩二郎

184号は、編集作業の都合上、5月9日(火)以降のお届けになります。
みんぱくミュージアム・ショップ等での販売も上記日程以降となります。

催しのご案内 友の会会員限定企画です!

中牧先生の理事長サロン

日時 6月3日(土) 15:30~16:30

会場 第5セミナー室(予定)

みんぱく友の会を運営する千里文化財団の理事長は、友の会会員のみなさんにもおなじみ、みんぱく名誉教授の中牧弘允先生です。昨年よりスタートした理事長主導(!)の交流企画「理事長サロン」。オンラインで続けてきましたが、今回は初の対面で開催します。友の会へのご要望や研究分野へのご質問に、中牧理事長が答えます。みなさまぜひ、ご参加ください。



中牧弘允 理事長

コロナの規制も緩和され、
心置きなく顔をあわせてお話
できる時が戻ってきました。
みなさまとのおしゃべりを
楽しみにしています。

参加方法

事前申込は不要です。当日受付にて会員証をご提示ください。
同日開催の友の会講演会とあわせてご予約ください!

お知らせ

オンラインで結ぶ「中牧理事長のオンラインサロン」は2023年秋ごろに開催予定です。ご遠方の方も、お問い合わせのうえ、ご予約ください。

東京講演会 実施報告

■第131回■2023年1月28日(土) 会場:JICA地球ひろば

古代エジプト文明の新たな研究拠点

大エジプト博物館への日本の支援

末森薫(民博准教授)

ギザの三大ピラミッドを臨む大地に大エジプト博物館が建設中です。建物の完成は目前に迫り、来館者を迎えるべく準備が進められています。エジプトの記念碑的な博物館を建設するにあたって、日本は有償資金協力(円借款)をおこなうとともに、技術協力を展開してきました。そのひとつに、先行して開設された大エジプト博物館保存修復センターへの人材育成プロジェクトがあります。プロジェクトでは、現地の現状や要望に合わせた人材育成プログラムを作成し、多種多様な研修を実施してきました。協力を開始した当初は、収蔵品の取り扱い方や収蔵環境を整えるために「予防保存」の分野に注力しました。その中には、民博が協力した収蔵品管理研修などが含まれています。事業をはじめた当時、エジプトでは予防保存はあまり馴染みのない考えでしたが、研修を通してじょじょに浸透し、エジプト側から情報を発信するまでに至りました。古代エジプト文明を対象とする歴史博物館に「エジプト考古学博物館」があります。一九〇二年に開館



大エジプト博物館の入口。日本語も記されている。
(撮影・末森薫、2022年)

したこの博物館は、歴史的に西欧の影響を強く受けてきました。新古典主義の建物のファサードにはギリシア様式の彫像が配置され、西欧の権威的な言語であるラテン語が刻まれています。また、エジプト考古学博物館の館長は九四一年まで西欧人が歴任しました。大エジプト博物館の入口には、英語の呼称の上に、アラビア語が重なるように記されています。エジプトが主体となる研究拠点であることを明示しているかのようです。その脇に小さく配置された日本語の呼称に、日本のこれからの支援の在り方を問われているようにも感じます。

館内催し 会員先行予約のご案内

みんぱくゼミナール、研究公演、みんぱく映画会には、友の会会員のみなさまを対象に先行予約がございます。
該当期間中に友の会事務局までご連絡ください。先行予約枠が定員に達した場合は、一般受付をご利用ください。



館内催しの詳細はこちら！ <https://www.minpaku.ac.jp/event/>

みんぱくゼミナール

第533回

データベースからデジタルミュージアムへ ——文化遺産オンラインのリニューアル公開とタイムマシンナビ

講師 丸川 雄三(民博准教授)
日時 5月20日(土)13:30~15:00(開場13:00)
会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

申込期間

■友の会先行受付(定員80名)
※受付期間は終了しました。

■一般受付
・オンライン予約
期間：4月17日(月)~5月17日(水)
・当日参加受付(定員80名)

第534回

日本人による最初期のガラパゴス探検

講師 丹羽 典生(民博教授)
日時 6月17日(土)13:30~15:00(開場13:00)
会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

申込期間

■友の会先行受付(定員80名)
期間：5月15日(月)~19日(金)

■一般受付
・オンライン予約
期間：5月22日(月)~6月14日(水)
・当日参加受付(定員80名)

第535回

情報工学研究者のフィールドワーク

講師 宮前 知佐子(民博助教)
日時 7月15日(土)13:30~15:00(開場13:00)
会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

申込期間

■友の会先行受付(定員80名)
期間：6月12日(月)~16日(金)

■一般受付
・オンライン予約
期間：6月19日(月)~7月12日(水)
・当日参加受付(定員80名)

みんぱく映画会

【特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」関連】

みんぱくワールドシネマ

ラ・ヨローナ 彷徨う女

解説 鈴木 紀(民博教授)
司会 菅瀬 晶子(民博准教授)
日時 5月27日(土)13:30~15:55(開場13:00)
会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員350名)

申込期間

■友の会先行受付(定員80名)
※受付期間は終了しました。

■一般受付
・オンライン・電話予約
期間：4月24日(月)~5月19日(金)

HARAJUKU 原宿

解説 安倍 オースタッド 玲子(オスロ大学教授)
エイリーク・スヴェンソン(映画監督)
司会 宮前 知佐子(民博助教)
日時 7月29日(土)13:30~16:15(開場13:00)
会場 みんぱくインテリジェントホール(講堂)(定員350名)

申込期間

■友の会先行受付(定員80名)
期間：6月19日(月)~23日(金)

■一般受付
・オンライン・電話予約
期間：6月26日(月)~7月21日(金)

申込方法

◆友の会先行受付

【申込先】千里文化財団友の会事務局
電話 06-6877-8893 (平日9:00~17:00)

◆一般受付

みんぱくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。

いずれも申込先着順。参加無料。ご本人を含む2名様までお申し込みいただけます。
みんぱく映画会は、要会員証または展示観覧券。
お申し込みの方には、当日11時より会場前にて入場整理券を配布します。

東京講演会 実施報告

■第132回■2023年2月26日(日) 会場：モンベル御徒町店

ペルーの民芸品制作と職人たちのいま

八木百合子(民博准教授)

ペルーには地方色豊かな民芸品が数多く存在します。それらのなかにはもともと日常生活で用いられていた実用品や人々の信仰と関わるもの、いくつかもあります。例えば、レタブロの名で知られる箱型祭壇はアンデス農村の人たちが家畜に関する儀礼に用いていたものです。またペルー南部プーノ州の名産品である素焼きの牛の置物は、アンデス高地の村々では魔除けとして今でも屋根の上に飾られています。そうしたアンデス由来の民芸品の多くは二〇世紀半ば以降、首都リマの白人や富裕層など外部に向けた商品となるなかで形態

やデザインが大きく変化してきました。特に一九九〇年代以降は、観光化とあいまって民芸品の需要が高まるなか、外国人や海外の関心を意識した新たな作品が次々に登場しています。

二〇〇〇年代に入りペルーでは、民芸品制作を国の文化遺産に指定し保護・育成する動きが高まっています。また、腕利きの職人には国から賞が授与されるなど、政府の一連の取り組みは地方出身の職人たちの知名度を高めることにも貢献してきました。その結果、名だたる賞を受賞した職人のなかには、海外に拠点を広げるなど新たな形でものづくりを展開している人もいます。

一方、地元で小さな博物館を開き、家族の歴史や民芸品づくりを広める活動を積極的におこなっている職人もいます。このようにペルーの民芸品制作は、作品そのものだけでなく、その社会的位置づけや職人を取りまく状況も時代とともに常に変わり続けています。



ペルー中部山岳地帯アヤクチュ州発祥のレタブロ（ヘノベバ・ヌニェス氏制作、個人蔵）。箱のなかにはこの地方に伝わるハサミ踊りの様子が描かれている。
(撮影・八木百合子、2023年)

5・6月のイベントスケジュール

■特別展

5/30(火)まで
「ラテンアメリカの民衆芸術」

●友の会講演会【オンラインは要事前申込】

5/6(土)鈴木紀(※)
6/3(土)市野進一郎(※)

●みんぱくゼミナール【要事前申込】

5/20(土)丸川雄三
6/17(土)丹羽典生

●みんぱくウィークエンド・サロン

5/14(日)齋藤晃

●みんぱく映画会【要事前申込】

5/27(土)「ラ・ヨローナ 彷徨う女」

●その他の催し

6/11(日)音楽の祭日2023 in みんぱく
【要事前申込】

【館外での催し】

■巡回展

5/7(日)まで
会場:KURUN HALL(クルンホール)・KURUN ラウンジ(岡山)
「ユニバーサル・ミュージアム
——さわる!“触”の大博覧会」岡山巡回展2023
5/14(日)まで
会場:福岡市博物館
「驚異と怪異——想像界の生きものたち」

●友の会 東京講演会【要事前申込】

6/24(土)
会場:モンベル御徒町店
岡田恵美

- ◆予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがございます。また、会場とオンライン配信の併用(※印)で実施する催しもございます。詳細はみんぱく、ならびに友の会のホームページをご確認ください。
- ◆イベントの参加には必ず会員証をお持ちください。

ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

■大阪

・会場(定員90名)、オンライン配信ともに事前申込先着順です。
・友の会会員の方は、会場参加に限り事前予約が不要です。
当日、会場受付にて会員証をご提示ください。

■東京

事前申込先着順です。オンライン配信はございません。

※大阪・東京ともに会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます。
(参加費500円)

大 阪

第537回

文化のなかでまもられるキツネザル

——マダガスカルにおける霊長類と人との関係

講 師：市野 進一郎(民博特任助教)

日 時：6月3日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

マダガスカルはアフリカ大陸南東のインド洋上にある巨大な島です。そこに生息する霊長類は約100種。すべてがマダガスカル固有種です。森林の消失が著しいマダガスカルにおける霊長類の保全には、地域住民の暮らしを理解することが必要とされています。講演では、南部の例を中心に、人びとが霊長類とどのようなかかわりをもって暮らしてきたか紹介します。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/537tomo/>



第538回

つないでほどもく——アイヌとシサム

講 師：北原 モコットウナシ(北海道大学准教授、民博特別客員教員)

※講師はオンライン登壇

司 会：齋藤 玲子(民博准教授)

日 時：7月1日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

本講演会では、アイヌとシサム(和民族)の関係を考えます。多くの人は、自分の属性(マジョリティ/マイノリティ)やルーツ、歴史との関わりを、常には意識していません。民族共生＝アイヌとシサムの関係調整・和解を具体的に進めていくため、ふだんは意識しない自分の立ち位置について考えてみませんか。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/538tomo/>



東 京

第134回

人はなぜ共に歌うのか？

——インド山岳民族ナガの伝統ポリフォニーと共生社会

講 師：岡田 恵美(民博准教授)

日 時：6月24日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会 場：モンベル御徒町店 4階サロン(定員50名)

※オンライン配信はございません。

学校をはじめとした式典において合唱は欠かせません。しかし社会人になると、集団で合唱する機会が減った方も多いのではないのでしょうか。インド北東部・山岳民族ナガの農村社会では、人が集まると自然と合唱が始まります。棚田での田植え、収穫、さまざまな場面で重なりあった声が響き、相互扶助の精神が歌のなかに息づいています。人はなぜ共に歌うのでしょうか。この根源的な問いを考えます。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/134tokyo/>



■第533回■2023年2月4日(土)

モンゴル遊牧民の「ルームツアー」

—モノの配置にみる生存戦略

堀田あゆみ（大阪国際大学 非常勤講師）

モンゴル遊牧民の物質文化については、モノの量的側面に焦点があてられ、「必要最小限」のモノで暮らしていると語られがちでした。しかし、一見すると整然としてモノが少なく見えるゲル（移動式住居）に、実際には一五〇〇点ほどのモノが存在しており、そのうち約六五パーセントは見えない場所に収納されています。



「見えない収納」を展示する中央・北アジア展示場のゲル。（撮影・堀田あゆみ、2017年）

最大限に活用されています。本講演では、遊牧民の生活世界にあるモノの全容を詳らかにしつつ、人とモノの関係性やモノを介した人びとの相互行為を通して、物質文化の実態や生存戦略について考えました。

モンゴル遊牧社会では、モノは他者からの働きかけで動くフローだと捉えられています。他者からの働きかけとは、つまり交渉です。そして交渉をうまく進めるために不可欠なのが、誰が何を持っているかという事前の情報収集です。こうした情報は、日課である他家への訪問時に収集されます。そのため、不用意にその存在を知られ交渉が持ちかけられ

ると困るモノは、所有者によつてあらかじめ隠されており、モノが存在するという情報自体が秘匿されましたが、ゲルが整然と見えるのは、意図的に見えないようモノが配置された結果だといえます。

彼らの物質文化の特徴は「モノが少なく」ことではなく、モノが情報として扱われている点にあります。自家のモノの情報を管理しつつ、入手し得た情報をもとに、交渉によつて他家のモノも利用できるというのが生存戦略の前提になっています。

■第534回■2023年3月4日(土)

中国における宗教と風紀

—回族によるアルコール排斥運動の展開

奈良雅史（民博准教授）

中国では、一九八〇年以降、宗教が急激に復興する一方で、中国政府による宗教活動に対する管理統制も続けられてきました。本講演会では、雲南省紅河州沙甸区におけるイスラーム系少数民族・回族によるアルコール排斥運動を取りあげ、この運動のプロセスを検討することで、中国におけるイスラーム的な風紀のあり方について考えました。

回族のあいだでも一般に飲酒はタブーとされますが、漢族との関わり方により、その許容度はさまざまでした。しかし、イスラーム復興に伴い、より厳格なイスラーム言説の影響が強まり、アルコール排斥運動が展開してきました。

ただし、中国では公共空間での宗教活動は法的に禁じられています。それにもかかわらず、沙甸区においてアルコール排斥運動が実施できた要因には、回族文化を資源とする政府主導の観光開発プロジェクト、政府主導の国民道德向上プロジェクトに当該運動を結びつけることが可能であったことが挙げられます。ただし、雲南省昆明市で起きたテロ事件

の影響により、当該運動は中止を余儀なくされます。しかし、回族たちはそれに固執せず、増加した観光客による風紀の乱れへの対処に目標を変え、イスラーム的な風紀の実現を目指してきました。

この事例は、風紀をめぐる諸実践が、回族が彼らを取り巻く状況において利用可能な諸要素を寄せ集めることで可能になっていたことを示唆します。そこには風紀の融通無碍な性格が伺えます。そして、ここに宗教活動の制限される中国を回族が回族として生き抜いていく可能性が開かれているかもしれません。



アルコールの弊害を訴えるポスター。（撮影・奈良雅史、2008年）

本紙掲載の情報は、2023年4月21日時点で決定している内容です。諸事情により急遽予定を変更する場合があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)

電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00)

FAX：06-6878-3716

e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報



ホームページ
https://www.minpaku.ac.jp



Facebook
https://www.facebook.com/MINPAKU.official

国立民族学博物館友の会 最新情報



ホームページ
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



Facebook
https://www.facebook.com/minpakutomo/